

海軍炭鉱本部庁舎の新築・移転(上) 海軍炭鉱・国鉄炭鉱の遺跡群(15)

戦後の国鉄志免炭業所(志免炭鉱)は戦前は海軍炭鉱でした。開発当時は新原の名が冠せられていましたが、本部庁舎が志免に移転したことから、新原海軍炭鉱は志免海軍炭鉱となります(正式な名称の変遷はもっと複雑ですが、説明を簡略化しています)。

その新築移転時の公文書を引用しておきましょう。以下、図面もJACAR(アジア歴史資料センター)RefC04016865400、海燃採第304号庁舎新営の件、公文備考 K 土木建築 巻20止(防衛省防衛研究所)による。(印)は一部を残して省略。

昭和四年十月十九日 大臣(海軍大臣のこと)海燃採(海軍燃料廠採炭部の略)第三〇四号、庁舎新営ノ件、五月三十日附認許ス。

*

海燃採第三〇四号 五月十二日進達

昭和四年五月十一日

海軍燃料廠採炭部長(印)

海軍大臣殿

庁舎新営ノ件上申

従来、当部庁舎ハ第四坑所在地ニ有之候処、作業ノ中心地漸ク第五坑ニ移リ候ニ付テハ、事業監督経営上、本年度ニ於テ別紙調査ノ通り、庁舎新営致度候条、御認許相成度。追テ、現庁舎ハ明治四十年ノ建設ニ係リ、既ニ腐朽甚シク、到底移築ノ価値無之候。

別紙 設計ノ要領(図面共) 三葉
位置 図 二葉 添
予定経費調査 一葉

此建坪六百参拾式平方メートル
二階建四百四十平方メートル
内平家建四百八十八平方メートル 総延面積八百拾九平方メートル
地下室四十三平方メートル

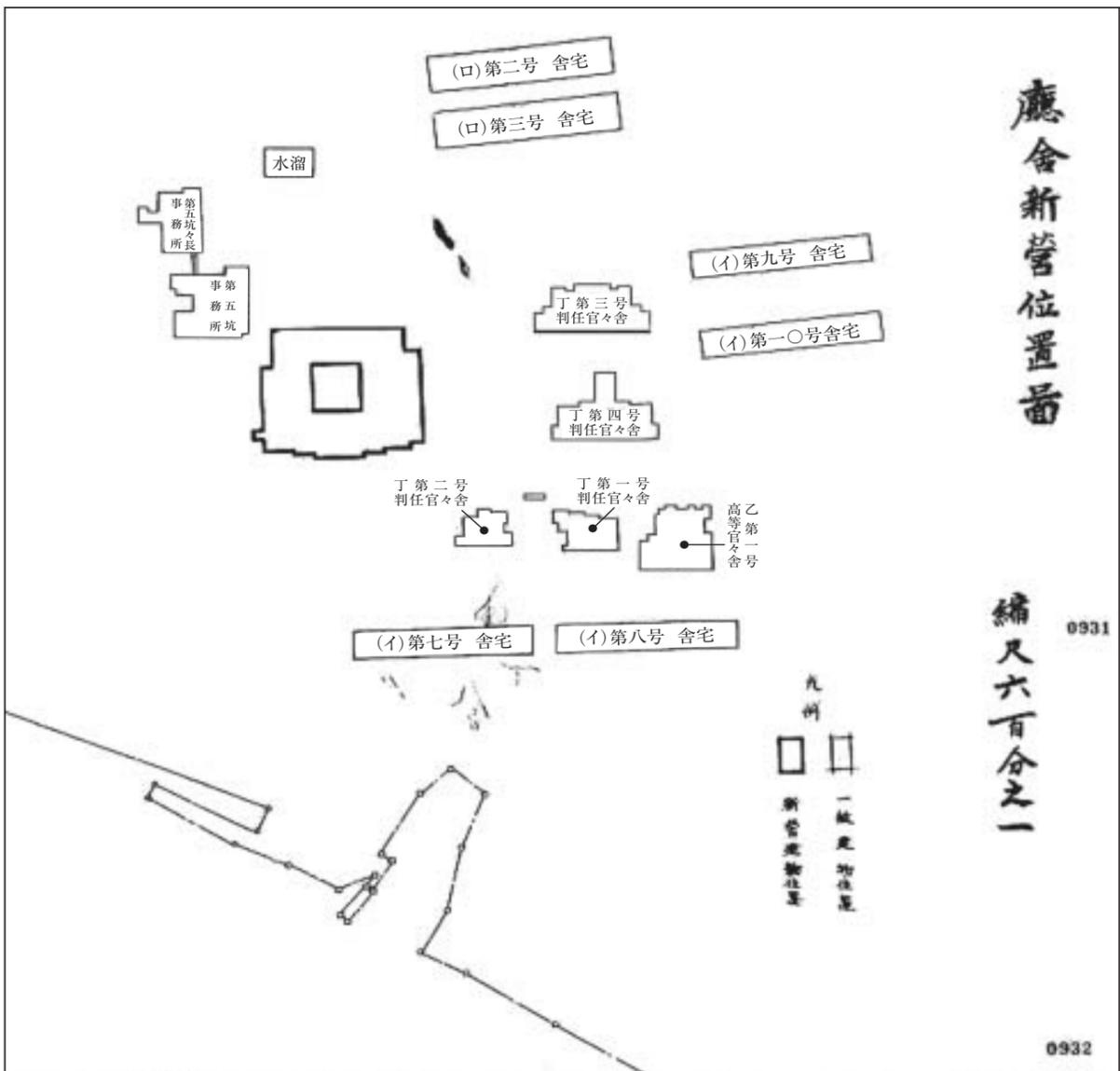
屋根方形造り、勾配三十五厘、西洋小屋、但シ一部陸屋根、外部玄関及側廻り腰人造石塗り、上部「モルタル」塗り、内部床板張り及「リノ

リウム」敷、一部「コンクリート」叩、「モルタル」塗及人造石塗り研出シ、室内一部腰板張り、上部壁及天井漆喰塗り、内外共木部「ペンキ」塗り、一部「ワニス」塗り
平家軒高、地盤ヨリ軒桁上端迄五米
二階家軒高地盤ヨリ軒桁上端迄九米八五

床にリノリウムが張られていたことは初めてわかったことです。次に「工事予定経費調査」です。

- 一、金参万円
- 内 訳
 - 基礎工事費 四、〇〇〇
 - 建築費 二〇、三五〇
 - 建具及雑工事費 五、六五〇
- 総工費三万円と見積もられています。

【続く】



第五坑の既存建物と新築庁舎の位置関係